

■タイ：国家エネルギー政策委員会、電源開発計画の修正案を承認

タイエネルギー省の2009年3月9日発表によると、国家エネルギー政策委員会は電源開発計画（PDP2007）の修正案を承認した。承認済計画では、2021年時点での発電容量は5,179万kWで、2008年末時点の設備容量2,914万kWからは2,265万kWの増加（老朽化によるリプレースを750万kWと見込んでおり実質の開発容量は3,015万kW）になる。開発総容量の内訳はEGAT分約1,180万kW、SPP（小規模発電事業者）分約200万kW、VSPP（極小規模発電事業者分）約55万kW、輸入分約500万kW、残る約1,080kW分が大規模IPP等となっている。また2009年から2021年までの12年間の投資総額は1兆6260億バーツ（約450億米ドル）で、2008年時点での計画からは約23%の減額となっており、経済情勢の悪化で需要予測が下方修正されたことを反映した形となっている。国家エネルギー政策委員会によると、この計画は経済成長率等の見直しで今後、更に修正される可能性があるという。